

2018ドラフト直前大特集

成績は2018年成績（9月9日現在）Wはウエスタ（）

過去5年のドラフト指名選手と成果度

2013年／成果度▶A

1	加治屋蓮	JR九州	試59	勝3	敗1	防3.40
2	森唯斗	三菱自動車刈谷	試55	勝2	敗4	防3.00
3	岡本健	新日鐵住金かずさマジック	試23	勝1	敗0	防3.05
4	上林誠知	仙台育英高	試119	率.263	本19	点55
育1	石川柁太	創価大	試29	勝11	敗6	防3.80
育3	曾根海成	京都国際高	広島へ移籍			
育4	張本優大	佛教大	W試36	率.214	本0	点2

2014年／成果度▶B

1	松本裕樹	盛岡大付高	試4	勝1	敗1	防3.48
2	栗原陵矢	春江工高	試6	率.250	本0	点0
3	古澤勝吾	九州国際大付高	W試30	率.101	本0	点4
4	笠谷俊介	大分商高	試9	勝0	敗1	防7.04
5	鳥袋洋奨	中央大	W試6	勝1	敗0	防5.40
育4	堀内汰門	山村国際高	W試24	率.196	本0	点4

2015年／成果度▶C+

1	高橋純平	県岐阜商高	W試22	勝1	敗6	防6.89
2	小澤怜史	日大三島高	W試14	勝2	敗2	防4.43
3	谷川原健太	豊橋中央高	W試79	率.251	本1	点10
4	茶谷健太	帝京三高	W試74	率.211	本3	点14
5	黒瀬健太	初芝橋本高	W試25	率.130	本1	点7
6	川瀬晃	大分商高	試13	率.188	本0	点2

2016年／成果度▶C+

1	田中正義	創価大	試10	勝0	敗1	防8.56
2	古谷優人	江陵高	W試23	勝4	敗1	防3.42
3	九鬼隆平	秀岳館高	W試11	率.296	本1	点2
4	三森大貴	青森山田高	W試50	率.271	本1	点12

2017年／成果度▶C

1	吉住晴斗	鶴岡東高	出場なし			
2	高橋礼	専修大	試6	勝0	敗1	防3.06
3	増田珠	横浜高	出場なし			
4	権野新	国士館大	W試9	勝1	敗2	防3.78
5	田浦文丸	秀岳館高	W試1	勝0	敗0	防0.00
育4	大竹耕太郎	早稲田大	試5	勝2	敗0	防2.67

昨年は清宮幸太郎の抽選を外し、5人中3人の高校生と2人の大学生を指名した。大学生の2人はどちらかといえは素材型で、近年の指名方針と大きな変化はない。間違っではないだろうが、2014年以降に指名した選手が、想像より伸びてきていない点は誤算だ。

オークやスライダーの変化球も優れている。
ほかに、今春は制球を乱した潜在能力は全国屈指の森悠祐（広陵高）や、ずしりと重い速球とタテの変化球が武器の鈴木裕太（日本文理高）も候補だ。
捕手は甲斐拓也でしばらく安心だが、バックアップ要員が見当たらない。頓宮裕真（亜細亜大）は、大学野球屈指の長距離バッター。ポジションを転々としているが、捕手としての動きは悪くない。プロで化ける可能性を秘めている。

将来性豊かな打力のある野手下位で余裕があれば、打力のある若い野手を加えておきたい。
地元・福岡の松井義弥（折尾愛真高）は、甲子園にも出場した190センチを超える左打ちの大内野手。体が大きい割に、コンパクトなスイングができ、走力もある。
大学生では、侍ジャパン代表表には選ばれ、国際大会でも活躍した伊藤裕季也（立正大）が候補。長打力のある右の強打者だ。



数年前からポスト内川聖一、松田宣浩と言われ、指名は続けてきた。長距離打者の育成は時間がかかるのは承知だが、なかなか2軍や3軍でも見通しがつく選手が出てこない。昨年のドラフトで清宮幸太郎（日本ハム）、安田尚憲（ロッテ）を抽選で外したが、今年もこのタイプの選手を狙いたい。そこでピックアップしたのは野村大樹（早稲田実）。これまではパワーや身体能力重視の指名が多かったが、野村は高い打撃技術を持ち、清宮の後ろで打ってきた強いメンタリティーも兼備している。戦力になっている中堅や芽が出てきた若手は左打者が多いので右打者であること、そして、三塁が守れることも高ポイントだ。